

一人ひとりの自立をめざした学級づくり

I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりが希薄になってきているように感じる。現代社会においては、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした社会の流れの中で、学校においても「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、子どもたち同士のつながりを大切にしたい学級づくりを目指し、問題の予防に努めていく中で、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について明らかにするための研究を行っていく。

II 研究の内容

1 研究の方法

(1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。

(レポートの例)

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、学級力向上のための取組など学年の発達の段階や各学級の 実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

(2) 講師を招き「子どもたちの自治の力を育てる指導・支援の在り方」についての学習会を行う。

(3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」についての学習を深める。

2 研究の具体的内容

(1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ・研究方法について

(2) 第2回研究会

年間計画についての検討・確認 春季教研の環流

(3) 第3回研究会 実践発表I

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

*子どもたちが「出来た」「自分のよいところ」を実感できる指導の工夫と実践

*アドラー心理学を生かした学級づくりの工夫と実践

*自己肯定感を高めるための工夫と実践

(4) 第4回研究会 夏季学習会・統一授業研指導案検討

・「教師が行う教育相談の技法」

～解決志向ブリーフセラピーの気取り論と演習～

講師：甲府東中学校 赤岡 玲子 先生

- ・授業案検討会
- (5) 第5回研究会 授業研究①
 - ・学級活動
 - 「『聞くしせい』をステップアップ！」(加納岩小学校2年 鶴田 望 先生)
- (6) 第6回研究会 実践発表Ⅱ
 - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
 - *一人ひとりの特性に寄り添う支援の実践
 - *信頼関係を築き、自信を持って活動する集団づくりの工夫と実践
 - *最高学年に向けて、前向きに取り組む集団づくりの工夫と実践
 - *道徳の授業を通して、約束や決まりの意義を考えさせる工夫と実践
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅲ・秋季教研環流報告
 - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
 - *ルールを守り、尊重し合える集団づくりの工夫と実践
 - *互いに認め合い、安心して伝え合える集団づくりの工夫と実践
 - *自分らしく主体的にいきいきと活動する工夫と実践
 - *「自律する」を目標とする集団づくりの工夫と実践
- (8) 第8回研究会
 - ・統一授業研指導案検討会
- (9) 第9回研究会 授業研究②
 - ・学級活動 「6年生へのステップアップとなるように、学級力を高めよう。」
(山梨小学校5年 今村 志帆 先生)
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅳ
 - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
 - *特別支援学級児童との関わり合いから、互いを認め合う活動の工夫と実践
 - *特別支援学級における自立をめざした学級づくりの工夫と実践
 - *個の取り組み、チームワークの取り組みからリーダーの力を伸ばす工夫と実践
 - *クラスの話し合いをもとにしたためあてから協力する大切さを学ぶ工夫と実践
 - ・研究のまとめ(成果と課題)

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・低学年高学年に分かれての研究会は、発達段階に合わせての指導を自分の学級と比べながら考えることができ、有意義だった。
- ・授業実践や実践発表などを通して、他の先生方と学び合い、自らの学級づくりに生かすことができた。
- ・一人一実践のレポートの中に自分の学級にもつながるヒントがたくさんあり参考になった。また、研究授業も子どもたち一人ひとりがしっかり考え意見を言っていた。
- ・小学校だけの実践ではなく、中学校の実践を学ぶことができ、大いに参考になった。
- ・夏季学習会は、講師を招いて、教育相談としての「ブリーフセラピーの基礎理論と演習」について、わかりやすい資料やワークシートを使って、カウンセリングの実践的技法を学び、大変有意義であった。

2 課題

- ・来年度も中学校の先生方が参加してくださるとよいと思う。
- ・実践報告もマンネリ化してきている面も見られる。学習会を充実させるなどの工夫も必要かと感じた。
- ・「子どもの権利条約」が多く話題に上がるので、学習する機会があってもよい。

(部長 相川和彦)